

慶應義塾大学 vs 桐蔭横浜大学

9月6日(土)
13:50K.O.
ゼットエーオリブ

前期リーグ最少失点(7点)の慶大。安定した守備を武器に接戦を勝点に結びつけ、4位で折り返した。昨年は最後まで残留争いに巻き込まれ、結果は10位でギリギリ踏みとどまった。それを考えれば、短い時間で大きな成長を遂げたといえる。選手も自信を手に入れているだけに、後期リーグもあっといわせるチーム力を見せてくれるのではないかと。

後期リーグもベースは変わらず、守備の安定を継続しながら、さらに須田芳正監督が掲げるパスサッカーを極める。

総理大臣杯の出場はならなかったが、その悔しさも改めて、後期リーグに向けチームが一つになって練習してきたのも強み。首位・専大との勝点差は5ポイント。十分に優勝も狙えるポジションだが、まずはプレッシャーをはねのけて自分たちの力を発揮できるかどうかだ。

1部リーグ2年目の桐蔭大。昨シーズンの9位を上回る順位を目指して前期リーグに臨んだが、前期リーグは9位で折り返しと思うような結果は残せていない。最大の課題は守備面で、11試合で25失点と最多失点。3勝したゲームは守備が安定していただけに、そういった試合を後期リーグでもできるかどうか。

現在は残留圏内で、11位・中大との勝点差は4ポイント。1試合でひっくり返ることはないが、逆に一気に残留争いに巻き込まれる可能性もある。そういう意味でも、初戦となるこの試合は非常に大事だ。

得点ランキング2位の山根視来(3年)など、攻撃陣にはパワーある選手がいる。課題の守備が安定すれば、一気に上位に躍り出る可能性もあるだけに、自信をもって戦いたい。

警告3回：溝淵雄志(慶大)、金子雄祐(桐蔭大)

前期の対戦：慶大3-0(シュート数8-7)桐蔭大

慶大				桐蔭大			
14. 井上	11. 増田	8. 山崎	3. 石堂				
2. 久保	13. 加瀬澤	11. 石川	24. 時田				
	18. 浅間		6. 福島				
1. 峯			1. 土井				
	8. 山浦		5. 大野				
6. 望月	9. 宮地	10. 坪井	4. 古澤				
3. 溝淵	7. 川田	7. 山根	18. 佐々木				

早稲田大学 vs 東京国際大学

9月7日(日)
13:50K.O.
早大G

ここ数年、安定した力を発揮し続けている早大だが、リーグ戦優勝には手が届いていない。ここぞという上位決戦で星を落とし、中でも専大に勝てていない。前期リーグも専大に0-3の完封負け。2位・順大にも0-0と勝ちきれなかった。後期リーグでは、いかに上位相手に勝点3を挙げることができるかがポイントだ。

早大といえば守備をベースに安定した戦いをしてきたが、今年は様相が違い前期リーグ9失点(リーグ3位)。そのうえ、11試合で15ゴールという得点力不足が加わり、それによって勝ちきれずにいる。

早慶サッカー定期戦で勝利を収めた後、例年にも増してタフにトレーニング。個人のレベルアップを目標に、精神的にも肉体的にも厳しい追い込みをかけてきた。その成果を後期リーグで見せることができるか。首位との5ポイント差を一気に逆転して、18年ぶりにリーグ戦を制するためにも、スタートダッシュが必要だ。

創部6年目で1部初挑戦の東国大だが、10位で折り返しと苦しい状況。11位・中大との勝点差は4ポイント。1試合で状況がひっくり変わることはないが、11位・中大、12位・筑波大はもともと力のあるチームだけに、東国大もしっかりと勝っていかないと厳しい状況

に追い込まれる。

もちろん、最初から残留を考えているのはアグレッシブな戦いはできない。インカレ出場を目指しているだけに、いかに連勝していくかがカギだ。

前期リーグは思うような試合展開に持ち込めず、結果にも結びつかなかった。その経験を生かし、後期リーグは勝点に結びつけていきたいところ。前期リーグ上位との対戦だが気後れせず戦いたい。

警告3回：福島遼(東国大)

前期の対戦：早大2-0(シュート数8-3)東国大

早大				東国大			
12. 八角	8. 堀田	22. 菅原	6. 新聞				
3. 田中	11. 上杉	4. 加藤	15. 舛田				
	2. 奥山		8. 上船				
1. 松澤			21. 今野				
	10. 近藤洋		10. 若井				
4. 金沢	9. 宮本	9. 福島	5. 鈴木				
5. 新井	7. 近藤貴	7. 小玉	12. 国井				

JR東日本カップ 2014 第88回 関東大学サッカーリーグ戦

OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM

VOL.26-NO.12 Division1



編集：加茂郁実 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ

後期リーグ開幕！ 混戦模様の優勝の行方は！

昨年に続き、今年も首位で前期リーグを折り返した専大。今年もこのまま突っ走り4連勝を手にするのか、それともストップをかけるチームが現れるのか。注目の後期リーグが始まる。

まずは首位を走る専大だが、8月に大阪で行われた総理大臣杯はあまり元気がなかった。関東予選を1位で通過したものの、本大会は準々決勝で法大に敗戦。内容も専大にしては迫力不足で、秋に向けて不安を残す結果となってしまった。総理大臣杯を終えて、もう一度パワーを取り戻しているのか。初戦の戦いぶりに注目が集まる。

前期リーグは快進撃を見せ、2位で折り返した順大。ただ、その実力は未知数であり、実際、総理大臣杯の関東予選では敗れている。まずは前期リーグの調子を持続するために、ベースとなる守備がポイントだろう。

首位・専大と5ポイント差の3位と、勝点差的には少し離れてしまった早大。それだけに負けられない試合が続くが、早大としてはやや失点が多かった(リーグ3位)のが気がかりだ。いかに改善できているか！

一昨年から大きく成長したのが慶大で、前期リーグを4位でターン。とにかく光ったのは守備力で、前期リーグ11試合で7失点はリーグ最少失点だった。これを後期リーグでも継続できるか。

首位・専大と8ポイント差の5位で折り返した明大。前期リーグはケガ人の影響などもあり思うような結果を出せなかったが、後期リーグで台風の目となり得るチームの一つだろう。前期リーグは得点力不足が目立ったが、その点が克服できれば一気に大逆転の可能性も夢ではない。

前期リーグは思うような結果を残せなかった国士大だが、総理大臣杯出場を果たして自信を取り戻している。総理大臣杯は2回戦で敗退したものの、後期リーグに向けてビ

得点ランキング

前澤 甲気(専大)	9点
山根 視来(桐蔭大)	7点
近藤 貴司(早大)	6点
藤本 佳希(明大)	5点

アシストランキング

北出 雄星(専大)	5アシスト
堀田 稜(早大)	4アシスト
以下3アシスト7名	

タリと照準を合わせているようだ。今シーズン3年ぶりに1部に復帰した駒大。前期リーグの立ち上がりは苦戦したが、その後、チームを立て直して総理大臣杯にも出場した。後期リーグも粘り強さを発揮するのは間違いない。

8位と元気がない流経大だが、総理大臣杯では見事に2連覇を達成。インカレ出場権を手にし、後期リーグ、伸び伸びとプレーができるのは強みだろう。

なかなか勝ちきれず9位と苦しんでいるのが桐蔭大。惜しい試合が多かっただけに、何とか勝ちきる力を身に付けたい。1部初挑戦の東国大は10位。後期リーグで一気に巻き返しを図る。

残留争いは中大と筑波大という、歴史ある2チームとなってしまった。10位・東国大とも勝点4ポイント差。一戦必勝の構えで臨まなければならないと同時に、初戦をモノにして涙に乗りたいところだ。

JR東日本カップ 2014 [第88回] 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

順位	専大	順大	早大	慶大	明大	国士大	駒大	流経大	桐蔭大	東国大	中大	筑波大	勝数	点数	負数	総得点	総失点	得失点差	勝点
1	専大	1●2	3○0	2△2	1△1	2○0	6○0	2○1	5○2	2○0	4○2	2○0	8	2	1	30	10	20	26
2	順大	2○1		0△0	0●1	0△0	2○1	1○0	3○1	4○1	2△2	2○1	7	3	1	18	8	10	24
3	早大	0●3	0△0		2○0	1●2	3○1	3○1	1△1	0△0	2○0	2○1	6	3	2	15	9	6	21
4	慶大	2△2	1○0	0●2		2○0	0△0	2○0	0△0	3○0	0●2	2○1	6	3	2	13	7	6	21
5	明大	1△1	0△0	2○1	0●2		2●3	2○0	0●1	4○1	1○0	1△1	5	3	3	16	11	5	18
6	国士大	0●2	1●2	1●3	0△0	3○2		2△2	2○1	1○0	1△1	2○1	5	3	3	16	14	2	18
7	駒大	0●6	0●1	1●3	0●2	0●2	2△2		3○0	3○2	1○0	2○1	5	1	5	16	22	-6	16
8	流経大	1●2	1●3	1△1	0△0	1○0	1●2	0●3		1●2	4○3	1○0	3	2	6	11	17	-6	11
9	桐蔭大	2●5	1●4	0△0	0●3	1●4	0●1	2●3	2○1		2○0	1●3	3	1	7	14	25	-11	10
10	東国大	0●2	2△2	0●2	2○0	0●1	1△1	0●1	3○4	0●2		1○0	2	3	6	10	16	-6	9
11	中大	2●4	1●2	1●2	1●2	1△1	1●2	1●2	0●1	3○1	0●1		1	2	8	11	18	-7	5
12	筑波大	0●2	0●2	0●1	0●1	1●3	0●3	3●4	1○0	1●3	1△1	0△0	1	2	8	7	20	-13	5

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

あなたの就活を、専任アドバイザーがマンツーマンでサポート。



順天堂大学 vs 中央大学

9月6日(土)
11:30K.O.
味フィ西

前期リーグ、大活躍だったのが順大。7勝1分3敗の2位で折り返し、首位・専大との勝点差は2ポイントだけに、もちろん優勝候補の一角とあっていい。ただし、総理大臣杯は関東予選で敗退。リズムが悪いと一気に崩れるもろさもあるだけに、いかに耐えるかが後期リーグもポイントになってくる。そして、たくましいチームへと成長していけるかがカギだ。

守備の徹底がベースで、前期リーグもリーグ2位の8失点。半面、そこからいかにゴールへ結びつけるかというところに関しては、まだまだといわざるを得ない。個人技に頼るところも多く、チームとしてはあと一步の成長が必要だ。後期リーグ、攻撃面でどれだけ成長した姿を見せることができるか。

挑戦者の立場から後期リーグは追いかける立場になるが、あくまでもアグレッシブな姿勢を貫きたい。

周囲の予想以上に前期リーグで苦しんだのが中大。結果を見れば僅差の試合が多いが、内容的には決してよくなく、何より試合を押し気味に進めながらもゴールを奪うことができず、そこからリズムを狂わすという悪循環に陥っている。

その状況を打破すべく、夏の間、厳しいトレーニング

を積んできた。ケガから戻ってきた選手もいるだけに、後期リーグは心機一転、本来の中大らしいサッカーを展開したいところだ。

11位と降格圏内に位置し、10位の東国大とは勝点4ポイント差。この状況が続けば続くほどプレッシャーがかかっているだけに、後期リーグの早いうちに残留圏内に入って落ち着くことも必要だろう。いいスタートを切りたい。

警告3回：岡崎亮平、橋本龍馬（以上中大）

前期の対戦：順大2-1（シュート数13-4）中大

順大		中大	
13. 宮本	11. 米田	11. 古橋	6. 鴨池
5. 新井	7. 内山	9. 内田	5. 岡崎
21. 大畑	10. 長谷川竜	7. 渡辺大	1. 前田
	9. 佐野		
	6. 長谷川涼	4. 渋谷	
4. 谷奥		10. 砂川	3. 木村
3. 吉永	8. 新里	14. 山田	2. 縣

国士舘大学 vs 駒澤大学

9月6日(土)
11:30K.O.
たつこの

昨年の後期リーグでは驚異的な強さを見せた国士大だったが、今シーズンはやや低迷。前期リーグは6位で折り返した。

ここから上位に進出するだけの實力は十分に持ち合わせている。ただ、前期リーグは上位3チームに敗戦と、力負けした格好で終了。上位チームにしっかりと勝てるようにならなければ、順位を上げることはできない。

総理大臣杯関東予選では3位と力を発揮したが、総理大臣杯では2回戦でPK戦の末に敗退。あと一步のところで力を発揮しきれないでいる。

14失点と、やや失点が多いのも気がかりだ。昨年は守備の徹底がされていただけに、どれだけディフェンス面で統一のとれたプレーができるかどうか。

昨年のように、後期リーグで再び国士大旋風を巻き起こしたい。

3年ぶりに1部に復帰した駒大。前期リーグ開幕当初はなかなか勝てず、苦しい試合が続いていたが、前期中で自分たちのサッカーを徹底してやろうと立ち返り、そこから連勝がスタートした。7位まで順位を上げて前期リーグをターン。総理大臣杯関東予選でも準優勝と好調を維持したが、総理大臣杯では2回戦で敗退してしま

った。ややパワー不足だっただけに、夏の間自分たちのサッカーを取り戻しているかどうか。

インカレ出場を目指し、最後まで粘り強く戦う駒大のサッカーを、開幕戦からしっかりと披露していきたいところ。前線の小牟田洋佑（4年）を生かした攻撃でゴールを奪うことができれば、インカレ出場の可能性は十分にある。

出場停止：小澤章人（国士大）、唐木澤真也（駒大）

警告3回：伊藤慎人（駒大）

前期の対戦：国士大2-2（シュート数7-11）駒大

国士大		駒大	
2. 藤岸	10. 進藤	7. 平野	13. 大木
4. 今瀬	11. 平松		3. 川岸
	8. 松本	10. 板倉	
1. 小澤		9. 小牟田	21. 積田
	19. 平野	11. 小牧	
5. 仲島	9. 木下	5. 伊藤	4. 平尾
25. 中村	12. 田中	8. 斎藤	15. 須貝

専修大学 vs 筑波大学

9月6日(土)
13:50K.O.
味フィ西

4連覇を目指す専大。前期リーグを首位で折り返し、やはり強さを見せつけた。続く総理大臣杯関東予選も1位突破。このまま総理大臣杯まで突っ走るかと思われたが、その後やや勢いがストップし、総理大臣杯は準々決勝で法大に0-1の敗戦となってしまった。

この試合を振り返ると、専大特有の追い越す動きがチーム全体としてほとんど見られなかった。運動力がなく、そのため前線が停滞。ゴールが生まれる雰囲気があったくなかった。後期リーグでもこういった試合が出るようだと、苦しい戦いになる可能性もある。

とはいえ、今シーズンは戦前から苦しい戦いを覚悟していたのも確か。それでも、首位で折り返すだけの力強さがあるのはさすがだ。後期リーグもそれを発揮し続けることができるかどうか。守備では不安が残るだけに、それ以上に攻撃面で力を発揮できるかどうかだろう。

一方の筑波大は最下位と苦戦中。ここ数年、残留争いに巻き込まれており、そこで最後に粘りを見せてきたものの、今年はかなりピンチといえるだろう。何しろ11試合を戦って、最終節の流経大戦に勝利しただけ。その後の総理大臣杯予選も初戦で敗退し、なかなか浮上のきっかけをつかめないでいる。だからこそ首位の専大戦で

勝点をゲットできれば、大きなはずみとなるだけに、何としてもこの試合で結果を出したいところだ。

ボールを保持している時間が長い試合も多いが、そこから得点に結びつけることができずにいるのが、今年の筑波大の大きな課題。シュートの質はもちろん、もっと積極的にシュートを打っていくことも必要だ。追い詰められた筑波大がどのような逆襲に出るのか、注目される。

警告3回：西村洋平、車屋紳太郎（以上筑波大）

前期の対戦：専大2-0（シュート数14-7）筑波大

専大		筑波大	
5. 小口	11. 前澤	10. 中野	4. 浅岡
6. 河津	17. 私市	9. 若杉	8. 早川
1. 福島	8. 星野	7. 車屋	1. 岩脇
	9. 山川		
	7. 北出	13. 齋藤	
3. 萩間		15. 北川	5. 西村
2. 北爪	10. 仲川	20. 野口	3. 三丸

明治大学 vs 流通経済大学

9月6日(土)
13:50K.O.
たつこの

前評判が高かった明大だが、前期リーグはまさかの5位。首位・専大との勝点差は8ポイントと、逆転優勝にはかなり厳しい状況に追い込まれた。

ただし、チームの調子はリーグ後半から上向き。ケガ人も戻ってきており、攻守に好選手がそろっているのは間違いない。あとはチームとしてしっかりと機能させることができれば、ここから一気に連勝街道も決して夢ではない。

前期リーグでは1位・専大、2位・順大にドロウ、3位・早大に勝利を収めているように、上位チームとは互角に戦っている。半面、慶大や国士大、流経大などに対して肝心なところで勝ちきれないのが響き、5位という結果に終わった。

後半戦の初戦は、痛い敗戦を喫した流経大とのゲーム。ここで勝ちきれば、一気に上昇気流に乗るはず。もともと後期リーグに強さを発揮する明大だけに、初戦の戦いぶりが注目される。

対する流経大も、戦前の評判はかなり高かった。しかし、前期リーグの結果は8位と振るわなかった。

しかし、3バックから4バックにシフトして戦った総理大臣杯関東予選は5位。そして、総理大臣杯では見事

に優勝を飾り、すでにインカレの出場権を獲得した。

ディフェンスを4バックにし、安定感が増した。このまま守備が安定すれば、後期リーグの台風の目になるだろう。

三冠を目標に残りのリーグ戦、そしてインカレを戦うが、リーグ戦は首位との差が15ポイントと、逆転するにはかなり厳しい数字。それでも、自分たちのサッカーを披露し、自分たちの力を信じて戦っていくしかない。

警告3回：小谷光毅（明大）

前期の対戦：明大0-1（シュート数8-4）流経大

明大		流経大	
6. 高橋	9. 矢島	20. 江坂	2. 湯澤
5. 松藤	18. 荻部		18. 今津
		6. 富田	
1. 三浦	10. 和泉	11. 藤本	19. ジャーメイン
	7. 差波		30. 桜井
			22. 坂田
3. 山越			17. 藤
			3. 田上
2. 室屋	8. 石原	9. 中村	4. 鈴木